

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

2010 年 10 月 28 日

派遣者氏名 (専門分野)	<div style="background-color: black; width: 150px; height: 20px; display: inline-block;"></div> (東洋史学)
--------------	--

派遣期間	2010 年 9 月 2 日 ~ 2010 年 9 月 13 日
------	----------------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
アメリカ合衆国	ワシントン DC	アメリカ国立公文書館 (NARA)

利用マニュアル (利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法を記入)

NARA は、ワシントン DC の中心部にある本館 (Archive1) とワシントン DC 郊外にある新館 (Archive2) のふたつにわかれている。筆者が閲覧したアメリカ駐上海領事文書は、新館に所蔵されているので、筆者は新館のみにしか行っていない。

新館での、文書の閲覧等であるが、仲本和彦著『アメリカ国立公文書館徹底ガイド』(凱風社、2008年、写真1) が非常に助けになった。この本は、入館から、文書の検索、閲覧申請の方法などが解説されており、本書を読めば、NARA におけるほとんどの疑問が解決する。実際、筆者が NARA にて職員と話した際、筆者が日本人であると分かると、職員が本書のコピーを取りだして、読むように勧めてくれたし、別の職員の話だと、NARA に来る日本人は皆本書を持って来るようなことを言っていた。

本書のおかげで事前に知識を得ることができたとし、NARA の職員も丁寧に対応してくれたので、文書の申請や閲覧もほとんど困ることがなかった。ただし、閲覧室に入るまでの手続きで起きたことを 2 点ほど挙げておこう。

1 点目は、閲覧室に持ち込む紙媒体についてである。本やメモ用紙といった、紙媒体は、閲覧室に持ち込むには NARA の職員にスタンプ (写真) を押してもらわないといけない。そのスタンプは、借りた本であろうが関係なく押されてしまう。実際、報告者も借りた本にスタンプを押されてしまった。



NARA APPROVED
SP 09/02/10

(写真) NARA のスタンプ

2 点目は、閲覧室に持ち込む電子機器である。閲覧室に持ち込む電子機器は、シリアルナンバーを控えられる。だが、実際には必ずしもシリアルナンバーというわけではなく、シリアルナンバーらしきものを控えられてしまうこともある。閲覧室から退出する際に、控えられたナンバーの下 4 桁を言わなければならないので、どの番号を控えられたかは注意しておく必要がある。また、電子辞書を持ち込もうとした時に、職員から「これは何だ」と聞かれたこともあった。